


【レポート】

人口減少や住宅の老朽化、社会情勢の変化等に伴い、空き家が増え、防犯面や環境面において、周辺地域に悪影響を及ぼしていることが全国的な問題となっています。本レポートでは、空き家をリノベーションし、地域のシェアスペースとして利活用することで、人の流れを創り出し、また、新たな「モノ」や「コト」を生み出す芸術や美術に関わる方を呼び込むことで、独創性のある魅力的な地域づくりに取り組む状況を共有します。

アートとクラフトの力でものづくりのまちの再建を — 空き家利活用によるアプローチ —

和歌山県本部／自治労海南市職員組合

A photograph of a modern dining room. The room features a wooden dining table and chairs, a wooden ceiling, and a staircase on the left. Sunlight streams in from a window, creating shadows on the floor. A bicycle is parked on the left side of the room.

—空き家利活用によるアプローチ—

アートとクラフトの力で
ものづくりの
まちの再建を

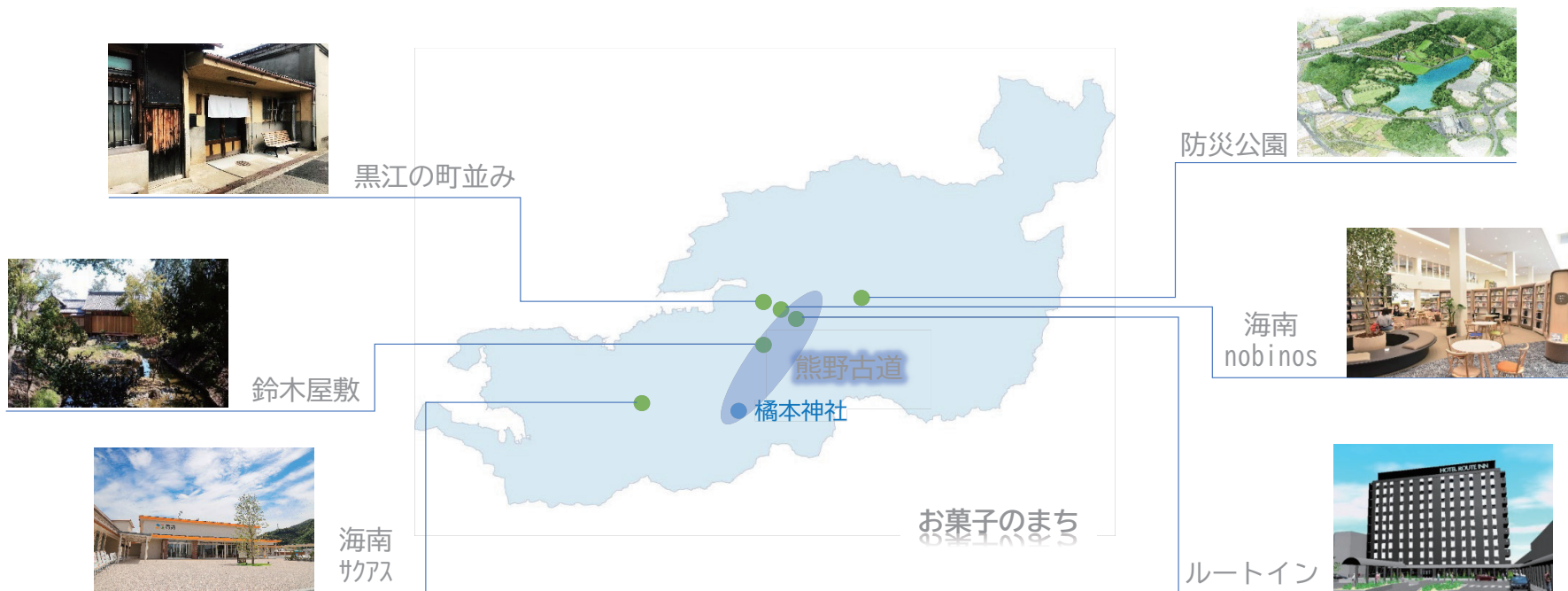
海南市について

海・山・川

自然豊かな文化のまち“海南”

和歌山県北部にある海南市は、温暖な気候や地勢を活かしたみかん・びわ・桃などの山の恵み、シラス・ハモなどの海の恵み、伝統産業である漆器・家庭用品産業、国宝や鈴木屋敷などの文化遺産、といった多くの地域資源を有し、大阪市内や関西国際空港へのアクセスが良好で、立地条件にも恵まれたまちです。

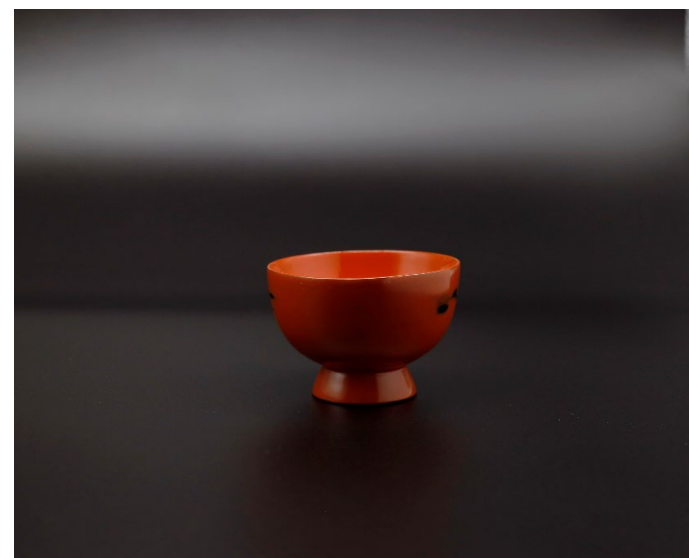
また、ミカンの原種であり、お菓子の起源といわれる橘（たちばな）が日本で初めに植えられたのが海南市（同市下津町にある橘本神社）であり、2018年12月には「海南市お菓子の振興に関する条例」が施行され、みかん・お菓子発祥の地としてもPRしています。



黒江について

四大漆器の産地

和歌山県北部にある海南市黒江は、漆器産地として400年以上の歴史があり、江戸時代には紀州藩の保護を受け漆器の町として栄えました。現在、地域の中心を走る「川端通り」は、かつて堀川として漆器の運搬等に使用され、川の両岸には漆器問屋、裏通りには、漆器職人の住居を兼ねた仕事場が立ち並び、今もその特色あるギザギザ小道やレトロな長屋が残っています。また、昔は黒江一帯に入江が広がっており、潮が引くと黒い牛の形をした岩が現れたことから「黒牛潟」と呼ばれ、これが黒江という地名の由来になったと言われています。



黒江について

空き家が目立つ地域に

近年、人口減少や住宅の老朽化、社会情勢の変化等に伴い空き家が増加しています。特に、適正な管理が行われないうまま放置された空き家が、防犯面や環境面など、周辺地域に悪影響を及ぼしていることが全国的な問題となっています。

この全国的な問題は、海南市でも当然ながら喫緊の課題として取り組んでいく必要があります。特に黒江地域については、市内で最も高い空家率となっています。



活動のきっかけ

旧漆精製工場がカフェやアトリエに

黒江は、古くから残る建物や路地裏から漂うゆったりした雰囲気の魅力の地域です。近年、空き家の解体などにより目に見えて昔ながらの町並みは失われ、人の動きも少なくなりました。黒江地域には古民家を改修したカフェなどもありますが、私たちが活動しているエリアにはお店がなく、人通りは本当に少なく閑散としていました。

しかし、レンガ造りが特徴的な漆精製工場であった建物をリノベーションした素敵なカフェが出来たことにより、状況は変わり始め、そのカフェがきっかけで人の流れが少しずつ生まれています。



団体の結成

b□aNck (ブランク)

活動の軸として考えていることは、魅力的な空間があれば人は集まるということ。そういう空間を作るには新しいモノやコトを生み出す人たちの力が不可欠であるということです。

黒江地域は、お店や工房など多くはありませんが、最近、カフェや若いオーナーさんが経営する本屋、古着屋などもでき、地域に少しずつ素敵な明かりが灯り始め、若い世代がチャレンジできる土壌となりつつあり、人の流れも活発になってきたと感じています。

この流れを途切れさせず黒江の町並みが持続し、より魅力的な地域となるように、アーティストたちが自由に活動できる空間を目指し、私たちも地域に入り活動することで空間づくりの一助になりたいと思いました。



団体の結成

b□aNck (ブランク)

アーティストたちが行き交い自由に活動できる地域空間を作りたいという共通の想いを持って集まった、海南市職員として働く3人で結成しています。

b□aNck (ブランク) 名前の由来は、ブランド、ブラック、ニュー、ブランクの造語

黒江が持つブランドカや新しく生み出したい brandのこと

黒江の名前にもあり、私たちがキーカラーとして
いるblackのこと

アーティストたちが新しく創造するNewのこと

これらをベースに地域の空白（空間や時間・blank）に、新たな価値を表現していきたい意味を込めてb□aNck（ブランク）としました。



b□aNck

活動の変遷

拠点となる古民家

まず、地域で活動するための拠点を探すことから始めました。活動拠点を探す上で、大切にしたことは、雰囲気のある路地であることと少しずつ出来始めた人の流れに沿った場所に立地していることでした。3人各々がこの条件で街歩きをし、地域の拠点の1つになり得ると全員一致でそう感じた場所が、この空き家となっていた古民家でした。すぐにオーナーさんと連絡を取り、自分たちがやりたいことを伝えたところ、「昔の雰囲気が失われていくのを寂しく感じている。まちが良くなる活動を応援したい」と共感していただきました。



活動の変遷

DIY可能物件

個人の暮らしが多様化する時代背景もあり、賃貸借という形を取りながら、オーナーさんと合意のうえで、入居者が自由にリフォームできる契約形態も出始め、国土交通省も「DIY型賃貸借のすすめ」を公表し普及に努めています。

今回、私たちもオーナーさんといろいろ話しを進める中で、この契約方法を活用し、空き家を自分たちの想う空間に改修したいと伝えたところ、快く了承してくださいました。



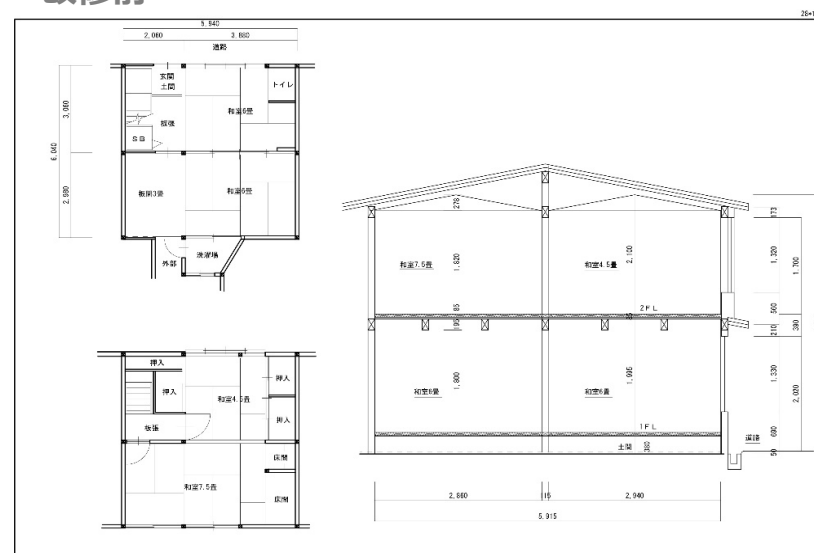
活動の変遷

古民家改修内容

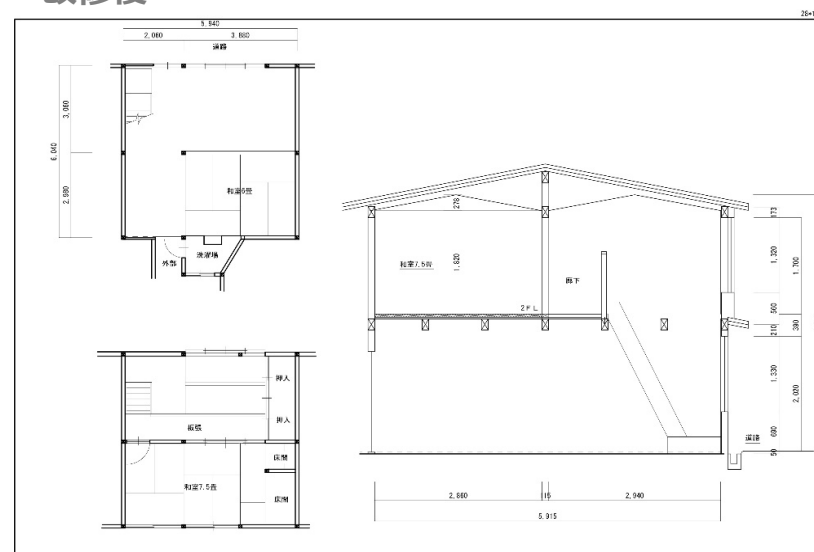
木造2階建ての古民家を改修することにしました。改修内容は、古民家が持っているレトロさと現代建築の無機質なイメージを融合した空間を目指しました。

吹き抜けや土間など風の通り道を意識した内容とし、また、訪れた人がくつろげる空間となるように、照明や家具などの種類や配置にも気を配りながら、「自分たちでできることは自分たちで」を基本に改修を進めました。

改修前



改修後

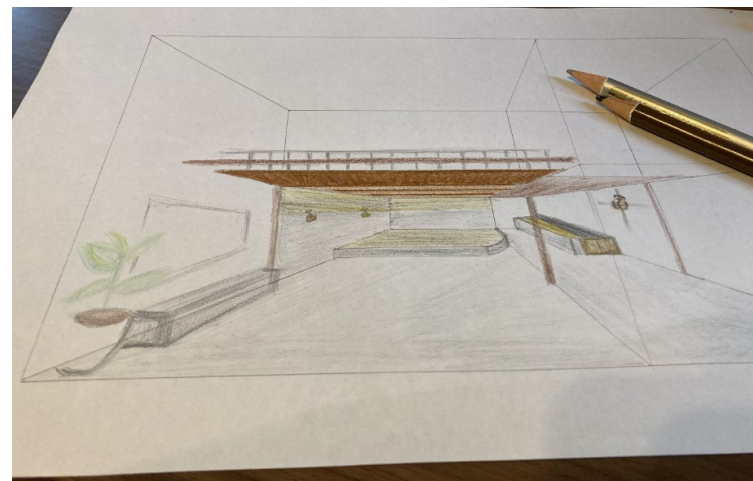


活動の変遷

改修前の内装



- ・元は、三軒長屋の木造2階建ての住宅
- ・天井から床までが低く圧迫感があった
- ・地域の方々や地域を訪れる方々がふらっと立ち寄り滞在しやすい空間を目指すこととした



活動の変遷

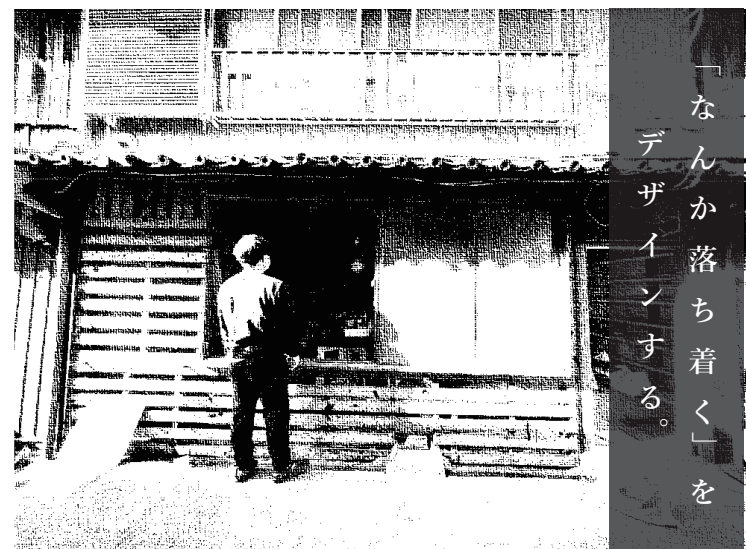
解体作業

- ・ 一段上がった床や1階の内壁外壁を全て撤去
- ・ 吹抜けにするために1階天井の一部を撤去
- ・ 解体時に出た木材やベニヤ板、その他以前生活されていた方が残っていた生活用品などを搬出



資金調達

- ・ 活動を行っている職員の実費に加え、活動に賛同してくれた職員からの寄附、クラウドファンディングを通じた地域の方々などからの寄附により、資金を調達



活動の変遷

土間打ち作業

- ・既存の床を撤去した後は、たくさんの石や砂利、過去の生活者のごみなどが散乱している状態に。大きい石はハンマー等で砕き、ごみを全て撤去。
- ・土間を水平に仕上げる作業など、自分たちでは難しい部分は専門の地元業者に依頼。
- ・土間打ちにより、以前の状態より建物強度も増した。



外壁左官作業

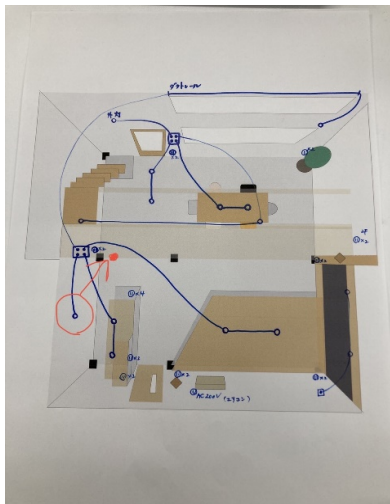
- ・通行人に興味を示してもらえるよう、スタイリッシュな外観を目指し、モルタル調の壁に仕上げた。
- ・全て自分たちの手で作業を行う予定で工程を組んでいたが、壁にモルタルをつける作業が困難を極め、モルタルの2度目の塗工程を業者に急遽依頼。



活動の変遷



活動の変遷



活動の変遷

内装のデザイン～内壁塗のワークショップ

- ・一般の内壁工事と同じ工程（コンパネ貼り、パテ塗、塗装等）をDIYで実施した。
- ・塗料については、人に優しい空間づくりを行うため、天然素材の塗料を探して調達し、全面塗装した。
- ・塗り工程時には、興味を示してくれる職員も増えたことから、塗りのワークショップを実施し、20人を超える参加者が集まった。



- ・できることは全て自分たち職員でという思いのもと、扉のデザインや内装デザインに至るまで全てに関わった。
- ・空間の雰囲気形成する、照明器具や家具についても、各地のものづくりにこだわる店舗に足を運び、職人の方々の思いを聞き、調達した。これらの調達したものづくり品が地域の方々の目に触れ、刺激になればという思いで配置した。



Transition



改修開始



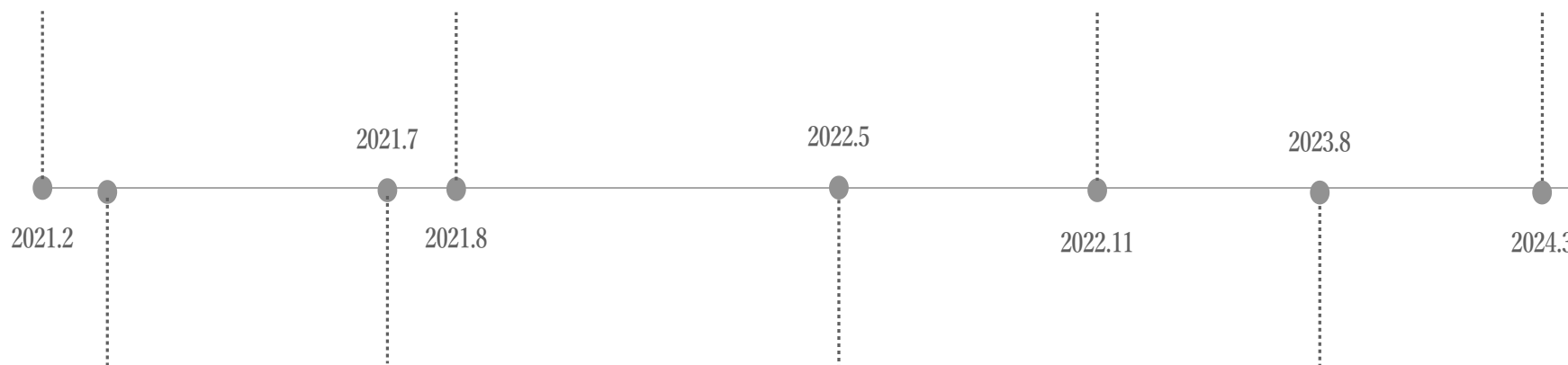
土間完成



改修完了



白イベント



解体作業



クラウドファンディング



外壁左官作業



POPUPイベント

改修後の活用事例

- ・多くの方々に興味を示していただける空間ができたことで、アロマショップやドライフラワーショップなど、多種多様なショップの方々に、ポップアップとして活用していただけるようになった。
- ・組合員の集まりの場としても活用されている。
- ・私たち自身も、現在色をテーマにしたイベントを開催しており、今後も活動の幅を広げていく予定。



各イベントの様子



今後の活動の展望・目標

カフェができ、本屋ができ、地域への流れが生まれました。私たちは地域にできたこの流れが、2つ、3つと増え、エリア全体で楽しめる空間を作ること为目标にしています。私たちが、それを実現するためのキーとしてアートを選んだのは、長年ものづくりが盛んであった黒江という地域が、歴史とアートの融合にピッタリだと感じたからです。

私たち3人は特にクリエイティブな特技を持っていませんが、拠点を作ることで、この地域へ興味を持ってくださった皆さんのハブ役になりたいと思っています。昔、黒江地域が職人の町として栄えていた頃のように、アーティストやクラフトマンたちが行き交う「ものづくりの町」の再建を心から願っています。その実現に向けた取り組みの一つとして、この地域でお店を開きたい、住み込んで働いてみたいと思ったださる方に向けた古民家を掘り起こし、オーナーさんとのマッチングを計画しています。特に、芸術・美術に関わる若い方たちの「アトリエや店舗を持ってチャレンジしたい」という想いに応えることができる地域となるよう活動を進めていきたいと考えています。

今後の活動の展望・目標

拠点は、黒江を訪れた方々に対し地域の魅力を伝える場として、また、地域で活動する方々のコミュニティスペース、例えば表現する場や学びの場として活用していきます。

私たちは、一過性ではない取り組みを目指しています。物事の移り変わりが激しい現代において、ものづくりに向き合う方々が生み出す「モノ」からは、機械による量産製品とは違う繊細さや持続性を感じます。この拠点も長く地域に根付いていくようなものにしていきたいと思っています。

活動を開始して以降、地域の方々から温かく声をかけていただいたり、改修作業を手伝っていただいたりと、地域とのつながりが深くなってきていると感じることも多くなりました。

私たちの活動が他の市役所職員や組合員に波及し、それぞれが地域に入り込み、創造力豊かな活動を行うことで、市の魅力向上に寄与するものと期待しています。